

2003.07.29：循環型まちづくり調査特別委員会

環境局長

本日は、お手元に4点ほど資料を用意させていただいております。いずれも、本市が環境負荷の少ない循環型の都市を目指すための施策体系や施策の取り組み状況についての資料でございます。

御説明申し上げますのは、資料1につきましては環境部の早田参事より、また資料2につきましては環境都市推進課長より、そして資料3及び資料4につきましてはリサイクル推進課長より、それぞれ御説明申し上げます。

池田友信委員

これから特別委員会でいろいろ審議するわけですが、その前に資料の説明にあわせて当局の見解をお聞きしたいと思います。

全体的に流れていくといろいろな循環型がありますが、資料の2新エネルギーについての中に、いろいろな新エネルギーの種類、それから本市が考えている経過、今後の予定等と書いてありますが、その中で仙台市の施設の中でエネルギーを発しているもの、これの利用をどういうふうにするかという検討、論議はされておられるのかどうか。その辺で、これにまだ加わっていない、この項目に記載されていないエネルギーについてはどんな見解を持っているのかお聞きしたいと思っています。まず、仙台市の施設の中で持つエネルギーの生かし方、この辺については検討されているかどうか。

環境都市推進課長

新エネルギー導入実績表の中で、リサイクルエネルギーという形で工場でのごみの廃熱の部分として利用しているのが現在では特徴的でございますけれども、例えば本庁舎とか北庁舎とかそういう部門のところでは、熱効率とかという問題もあると思いますので、今現在、まだ検討はしておりませんが、熱を多く排出するところではそういうエネルギーを使っているという現状でございます。

池田友信委員

それだけですか。我々経験の多い委員にとって、最大のエネルギーの中でまだ未開発とか未使用とされている部分としては、ガスなんです。ガスの冷熱。これは、850億円も建設費をかけて海上方式をとることについて議会に示した理由の一つには、冷熱利用をするというふうな一つの方針があったわけです。これは、ガス局が考えるのか、環境局が考えるのか、全庁的に考えるのかです

が、この中に私としては、当初ガスの基地をつくるのに海上方式を導入するに当たって、理由の一つとして冷熱利用という説明があったんですが、これがこの新エネルギーの種類の中に、強いて言うと10)天然ガスコージェネレーション並びに8)温度差エネルギーの利用、この部分なんです。マイナス160度ないし190度ですから、海水をかけて、今、全く放出しているわけです。液状のガスを気化にするためにいろいろなパイプを通して、大体プラス10度、下がっても零度、それからマイナス160度ですから、170度の差を管を通して海水をかけて現在放出しているわけです。利用はしていません。

このエネルギーというのは非常にもったいないんです。これを新エネルギーという形で当局として、本市においてはいろいろな形でやっていますが、今後はどうなのかということを見ると、その項目が入っていない。これは、仙台市としてそういうエネルギー開発、エネルギー利用という形で考えがあるかどうかということをもっとお聞きしたいと思います。

特別委員会としては、今後当局の見解を聞いて我々にはどうすべきかということこれから論議するわけですが、現状の中での当局の考え方をお聞きしたいと思います。

環境局長

御指摘のとおり、熱源という形では潜在的な——今のものは潜在的というよりも全く明らかな巨大な熱源でございますけれども、今、御指摘ございましたようにLNGの問題とか、あるいは下水道が持っている潜在的な大きな熱エネルギーとしての一つの固まりとか、いろいろ我々が申し上げましたほかにもあると思います。

しかし、特に今のガス局の件につきましては、非常に限定的なといいますか、私どもが今申し上げた非常に汎用性のあるものに比べれば非常に特殊な事例でございます。その辺につきましては、ガス局の経営の中での技術的な問題とかいろいろ特殊事情もございますので、ガス局の方に検討をお願いして、もちろんおっしゃるとおり少しでもエネルギーとして再生利用が可能なものについては、私どものスタンスとしては、それはお願いをする立場ではございます。しかし、今申しましたとおりに技術的な問題とかいろいろな問題を抱えているということも実態としてあるわけでございますので、今後の課題としてガス局の方ともいろいろ研究をしていきたいと思っております。

委員長

池田友信委員、本題の方にか、今、資料で説明いただいて、中心的な進め方は、委員同士の議論とか資料に基づいてというやり方を皆に諮ろうと思っ

たんですが、今、説明いただいたので、それについてはその後でもいいのではないかという気がしたものですから、まずは本題というか、その辺池田委員の方でお考えいただければと思います。

池田友信委員

当局の現状をお伺いして、あとは後ほど。私としては、ここの特別委員会のメンバーでいろいろ方向を出していきたいというふうに思っておりますが、わかりました。現状としてはまだやっていないということで、今後の課題だということでもありますから、これは後ほど特別委員会の中でいろいろな意見を出して、あと当局の方に御提言申し上げたいと思っております。

委員長

ほかになければ、次に今後の本委員会の進め方について皆様方に協議をさせていただきたいと思っております。

本委員会は、お手元に配付の設置要綱にありますとおり、資源・エネルギーの有効利用、ごみ減量・リサイクル等の環境負荷を軽減する施策を推進し、循環型都市の形成を図ることを目的として、環境負荷の少ない循環型まちづくりに向けた諸課題・方策等について調査を行うために設置されたものであります。

その設置目的を達成するための本委員会の1年間の運営についてであります。副委員長とも相談の上、案を考えておりましたので、まずそちらの方を皆様方に配付をさせていただきます。

〔資料配付〕

委員長

配付漏れはございませんか。

それでは、ただいま配付いたさせました、委員会の運営について（案）をごらんいただきたいと思います。

まず、調査対象及び調査事項についてであります。昨年に引き続く形で本市の恒久的な課題であります、ごみ減量・リサイクル等について、さらに昨年度のテーマ、資源・エネルギーの有効利用についてを新エネルギーの観点からさらに他方面での可能性を図ることを目指し、新エネルギーの有効利用と新たな可能性についてを基本的なテーマとして御議論をいただき、調査を行いたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

委員長

それでは、年間のテーマといたしましては、新エネルギーの有効利用と新たな可能性について、ごみ減量・リサイクル等についてということにさせていただきます。

佐藤正昭委員

どうしてもこういう調査特別委員会というのは幅広なもので、議論は大きくするととても格好いいと思うんです。しかし、こういうものは仙台市議会に設置された調査特別委員会であるから、仙台市議会に設置されたということは何かという、やはり市民に一番近い立場で、そういう議会の人たちがこの調査特別委員会をするということなので、国に設置されたものとか県に設置されたものとはそこが違うと思うんです。昨年、健康プランが全国一斉にできて、日本でも健康プランができた、各47の都道府県でも健康プランができた、それで市町村でもできたということで、3,200の市町村で全部健康プランをつかったわけなんです。そうすると、国でつくったものとやはり市町村でつくったものというのは、おのずから違ってきていい、特徴のあるものになっていったらいい。それで特徴は何かという、やはり我々は市民に一番近い立場ということなので、市民の目線での議論をした方が委員会としてはわかりやすいのではないかという考えを私は持っているんです。

そうすると、最初に新エネルギーの有効利用、私はここの議論をとてもしたいのです。私の得意な分野だから、新エネルギーの有効利用と新たな可能性なんていうのは当局ととてもやりたいと思っているんです。でも、このことをやっていってしまうと、去年の報告書も読ませていただいたんだけど、議論が余りに幅広になって何か取りとめがなくなってしまうようだと思っていたんです。だから、調査事項は今のこれでいいです。しかし、その議論の中で、やはり我々の目線、常に市民の目線という形の中の議論を繰り広げていければという要望だけお願いします。

池田友信委員

今のことは御意見としてまさにそうだと思うのですが、私は新エネルギーも可能な部分とか、特別委員会というのは、この期間、実質的にきょうを入れて4回です。そうすると、この短期間の中である程度の市民が議会でやっているなど、こういうふうな形の特別委員会をやはりしなければならない。そうすると、おのずとぐっとテーマを絞って、この中で出てきた意見が本会議で報告されて、当局側がこれを聞いて、一応議会の中での政策提言だと受けとめるような論議をしてまとめていく、そのポイントは何かと、こういうことで論議した方がいいと思うんです。先ほど私がそういう意味で、新エネルギーの中では仙台市の

ガスとか何か、そういう身近なものの中で可能性のあるもの、そういうものがある程度具体的に提言する。あるいは、ごみにしてもいろいろな、先ほど言ったような身近なもので一斉にこうすべきだと、こういうものの展開とか、そういうものが我々委員がこれから求められることだから、この二つのテーマの中でいかに自分としての持論を提言して意見を交換するかという形にやっていった方がいいのではないかと思います。

委員長

今、佐藤正昭委員と池田友信委員の方からそれぞれの意見をいただきましたが、私と副委員長の考えといたしましては、この特別委員会は2年目になるわけがありますが、ごみ減量については、もう先ほど言いましたけれども仙台市の恒久的なテーマであると。そうしまして、環境負荷の少ない循環型のまちづくりについて、何を委員の皆さんに議論していただくか。先ほど言いましたとおり当局との対話ではなくて、委員としての意見交換ということを中心でそれを進めたいと思っているのですが、その中で先ほど進め方の上で、池田友信委員のとき発言を遮るような形になったんですが、これは当局との討論ではなくて、この新エネルギーを考えていたものですから、こちらの本題の方でお話をいただけるのかなという私の考えだったものですから、御理解をいただきたいと思

います。

その中で、さまざまな意見があるだろうと思います。それで佐藤正昭委員のとおり、環境局1局ではなくて、特別委員会なものですからそのほかの局を交えた形ができないかという検討もさせていただきました。しかし、その問題についてもなかなか難しかったものですから、その中でやはり環境負荷の少ないテーマということでは、このエネルギー問題をやった方がいいのではないかと

いう私と副委員長の考えだったものですから、テーマについてはぜひ御理解をいただきまして、その中で市民の方々に御理解いただけるようなテーマを掘り下げて議論をさせていただければと思っておりますので、御理解をいただきたいと思

います。

そのほかに何かご意見がありましたら、お願いいたします。

委員長

それでは、皆さんに改めてお諮りをさせていただきますが、年間のテーマといたしましては、新エネルギーの有効利用と新たな可能性について、ごみ減量・リサイクル等についてということではいかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

御異議なしと認めます。

それでは次に、調査の手法につきましては、議会の自主的かつ自立的な政策研究の場として、委員相互の意見交換や議論を中心に、資料に基づく調査、参考人からの意見聴取、他都市視察等ということで進めてまいりたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

それでは、そのようにさせていただきます。

次に、年間開催計画についてであります。現時点での予定として委員会開催の日程を入れました年間開催計画（案）を配付しておりますが、本日を含めまして10月、翌年1月、4月の計4回ということで考えておりますが、今後、調査、研究していく中でそれ以上になる場合もあるかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

次に、参考人についてであります。できれば次回の委員会で参考人をお呼びして、御意見などをお聞きしたいと考えております。参考人の人選につきましては、きょうに限らず私の方まで申し出ただけであれば、その意見を参考にさせていただきたいと思っております。そのことも含めまして、参考人については正副委員長に御一任させていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

委員長

それでは、そのようにさせていただきます。

池田友信委員

我々が論議した中で参考人を呼ぶのが一番いいんでしょうけれども、時間が無いのでお任せするとして、その参考人の対象というか、このテーマ二つを網羅するということですね。それだけ確認させてください。

委員長

二つというか、新エネルギーの部分も含めながら何人かちょっと考えておりました。そして参考人については、スケジュールがとれるかどうかの問題もあります。ですから、私と副委員長の方で何人かピックアップさせていただきまして、先方と交渉して、その方が決まりましたら皆さんの方に報告をさせていただきまして、日程もその方に合わせる部分があるのですが、ある程度はこらち

の要望も出しますので、その辺は御理解を いただきたいと思います。